

市民普請大賞 準グランプリ



号外

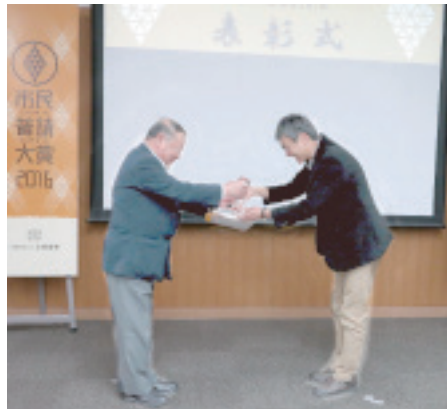


2017年(平成29年)
1月22日
北川かっぱの会

行政と協働、長年の活動高評価

土木学会主催の市民普請大賞2016が2016年11月23日、東京の四谷、土木学会講堂で開かれた。一次審査を通過した6団体によるプレゼン、公開審査が行われ、北川かっぱの会は準グランプリを受賞した。

かっぱの会は、2004年の北川自然護岸化、善行橋下の魚道を中心に清水代表によるプレゼン。長年の活動、サラリーマン調査方式などに高い評価が集まった。また審査員からは今後の活動に期待とエールが寄せられた。



田代土木学会会長(左)より、準グランプリの表彰状・盾が授与される。右、北川かっぱの会清水淳代表。

発表内容要旨

コンクリートで固められた北川に、原風景を取り戻したい。その思いから「北川復元プラン」をまとめ、東村山市に提示しました。また、「川端会議」で、かっぱの会以外の市民からも広く意見を取り入れる仕組みもつくりました。そのプランのつとめ、北山公園内の北川護岸をはずし、堰を魚道に置き換えて、魚類の往来を可能としました。その魚道の効果測定は、出勤前後の市民で実施「サラリーマン調査方式」と名付けました。

選考委員講評



木村 亮 京都大学大学院教授 選考委員長
キーワードはとても大切だ。「川端会議」「サラリーマン調査方式」「子どもたちに遊びの遺伝子を伝える」。すばらしいワードを持っている。長い活動も評価。

阿部 悟 国土交通省大臣官房技術調査官
行政と市民のかかわり、全国モデルになりえる。いろいろな場所で発表、広めることを期待する。

真田 純子 東京工業大学大学院 准教授
市民がやりたいことに市が巻き込まれてゆくというフレーズで発信してみてもいい。長い歴史が評価できる。

市民普請大賞とは

『市民が主導的役割を果たしながら、地域を豊かにするために実践する公共のための取り組み』、それが「市民普請」です。

かつて道路や橋、用水路、堤防などの公共施設は市民による普請によって造られていました。ところが明治期になると公共事業になり、私達の意識からは離れた存在となっていました。

土木学会「市民普請大賞」は、2014年の土木学会100周年記念事業の一環として、現代の「市民普請」を土木学会として応援するために創設された賞です。土木学会資料より

グランプリは、別所

砂留を守る会(広島県)だった。砂留(すなごめ)とは砂防ダムのこと。

江戸時代につくられ、埋没していた砂留を、古老の話をもとに発掘保全活動をしている。砂留の写真が提示されたとき、場内にはどよめきがおこった。美しいカーブを描く石積みは城郭のよう。

文化遺産級の建築を前に、どこも勝負にならなかった。この状況でのかっぱの準グランプリは値千金だろう。

当日の様子はYouTubeで配信中(土木広報)
最終選考: <https://youtu.be/Ehq2drpS3ZA>
全体討論: <https://youtu.be/R1AWRD4VUco>
講評・表彰式: <https://youtu.be/H1G8xibXTFO>